



## トピックス…①

# 2021年度のALIC事業による関連対策の概要

2021年度の加工原料乳生産者補給金、畜産物価格関連対策などが昨年12月10日に決まった。補給金単価は1kg当たり8円26銭（前年度比5銭下げ）、集送乳調整金は同2円59銭（5銭上げ）となり、合計は同10円85銭で据え置きとなった。

ここでは、畜産物価格関連対策のうち、拡充された「酪農生産基盤強化のための総合対策」[45.7億円（前年度44.5億円）]を中心に、その概要を紹介する。

### I 加工原料乳生産者補給金等

2021年度の加工原料乳補給金は、前年度単価（8円31銭）に、搾乳牛1頭当たり生産費の減少や乳量の増加を反映した変動率（0.9937）を乗じて、5銭引き下げの8円26銭となった。一方、集送乳調整金は、前年度単価（2円54銭）に、集送乳単価の増加や集送乳量の減少を反映した変動率（1.0203）を乗じて、5銭引き上げの2円59銭となった。交付対象数量は、推定の乳製品向け生乳消費量や貿易協定による乳製品輸入量などを踏まえて、前年度並みの345万トンとなった（表参照）。

表 加工原料乳生産者補給金単価等の推移

単位：円/kg、万トン

	2019年度	2020年度	2021年度
補給金単価	8.31	8.31	8.26
集送乳調整金単価	2.49	2.54	2.59
交付対象数量	340	345	345

### II 酪農生産基盤強化のための総合対策

#### 1. 事業の目的

わが国の酪農は、高齢化等により酪農家戸数や飼養頭数が減少し、後継牛不足も深刻化するなど生産基盤の弱体化が進行している。このため、生産者集団等が行う地域の創意工夫を生かした取組を支援し、担い手や乳用後継牛を確保していくとともに、経営の持続性の向上を図り、地域の実情に応じた酪農生産基盤の維持・強化を図る。

#### 2. 事業の内容

##### (1) 中小酪農経営等の生産基盤維持・強化

①後継牛確保のための環境整備 22.1億円（前年度21.1億円）

後継牛の育成等のための簡易畜舎整備、機器導入、つなぎ牛舎の改良、育成牛の事故率低減（ワクチン1千円/頭）、供用期間の延長支援（肢蹄保護、乳房炎ワクチン等、1千円/頭）、後継者への経営基盤強化（初妊牛導入5万円/頭）、暑熱ストレスの軽減、乳用牛の地域内継承・育成牛の地域内流通促進（奨励金

3万2千円/頭）、増頭に必要な牛舎の空きスペースの簡易な整備、都府県の自家育成中小農家の生産基盤強化（自家生産子牛増頭5万円/頭）等の取組を支援する。

##### ②地域の生産体制の強化 4.1億円（5.0億円）

生産基盤が脆弱な地域において持続的な生乳生産体制を確保するため、

(ア) 経営離脱農家等を研修施設として活用した担い手の確保、

(イ) 将来にわたって持続可能な経営体の創出、

(ウ) 後継牛の地域内生産（後継牛バンク）、

(エ) 後継牛育成のための広域預託（上限6.9万円/頭）を推進する取組等を支援する。

##### (2) 酪農ヘルパーの利用拡大 10.1億円（9.0億円）

①酪農ヘルパーの職業認知度向上、修学支援（月額最大12万円以内（国負担額6万円以内）×最大2年）、学生インターンシップの受入、人材コンサルタントの活用、就業前後の研修や外国人材の活用等の人材確保・育成、②酪農家の傷病時等（病気、事故、出産等）の利用料金を軽減するための互助基金制度、③広域利用調整、酪農ヘルパーの待遇改善（最大3万円/月×12ヵ月）や利用組合の経営改善等の利用組合強化の取組を支援する。

##### (3) 生乳流通体制の合理化の推進 4.9億円（5.1億円）

生乳流通コストの生産者負担を軽減するため、①生乳生産者団体等が行う「生乳流通合理化計画」等の検討・作成、②生乳流通関係機器のリース導入、③貯乳施設の減容化・需給調整機能を持たせるために必要な補改修、④乳代精算方法の効率化等の取組を支援する。

##### (4) 乳用牛の計画的な改良・増殖の推進

4.4億円（4.4億円）

牛群検定組合等が行う遺伝情報（SNP）データの収集等の取組、乳用牛の飼養管理に係る技術指導等を支援する。